

2016年度第1回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 庄内川特別

庄内川（しょうないがわ）は、愛知県西部を流れる川。岐阜県恵那市付近の山地に発し、名古屋市の北部で矢田川と合流した後、伊勢湾に注ぐ。岐阜県内では土岐川とも呼ばれる。

○ 農林水産省賞典愛知杯（GⅢ）

本競走は、昭和38年に創設された重賞競走。当初は、外国産馬以外のすべての馬に出走資格が与えられていた。47年には、内国産種牡馬の奨励と保護の一環として、父内国産馬限定競走となった。平成16年からは牝馬限定の競走として改められ、18年より施行時期が6月から12月、28年より12月から1月に変更された（27年は休止）。

○ 伊勢特別

伊勢（いせ）は、旧国名。東海道14か国の1つで、現在の三重県の大半を占めていた。天照大神と豊受の神を祭る伊勢神宮には、昔から多くの「お伊勢参り」の参詣者が訪れる。

<第2日>

○ はこべら賞

はこべらは、ナデシコ科ハコベ属の越年草。春の七草の1つ。全国各地に広く分布し、高さは10～30cm。茎は斜め上に伸び、緑色で柔らかく、卵形の葉が対生する。春から夏にかけて、多数の白い花をつける。花言葉は「愛らしい」「追想」。

○ 長篠ステークス

長篠（ながしの）は、愛知県新城市の地名。天正3年（1575）に織田信長と徳川家康の連合軍が、甲州武田の騎馬軍と戦った「長篠の戦い」の古戦場として知られている。

○ 恋路ヶ浜特別

恋路ヶ浜（こいじがはま）は、渥美半島の伊良湖岬灯台付近から日出の石門までの約1kmにわたる白浜の海岸。高貴な男女が恋に落ちて都を追われ、この地に逃れてきたものの、好奇の目に耐えかねて男性は裏浜の弁財ヶ浜に、女性は岬の恋路ヶ浜に別れて住んでいた。やがて病に倒れ、世間を恨みながら亡くなり、女性は女貝に、男性はミル貝になったという悲恋の伝説がある。

<第3日>

○ なずな賞

なずなは、アブラナ科ナズナ属の越年草。春の七草の1つ。全国各地に広く分布し、高さは10～40cm。春に白い小さな4弁花を総状につけ、三味線の撥(ばち)のような形の実を結ぶ。花言葉は「全てを捧げます」。

○ 中京スポニチ賞

中京スポニチは、スポーツニッポン新聞社が発行するスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて施行されている。

○ 西尾特別

西尾(にしお)は、愛知県、矢作川流域の南端に位置する市。抹茶の生産地として有名。市内吉良町付近は、元禄赤穂事件を題材にとった作品『忠臣蔵』の中で、敵役として描かれた吉良義央の領地であったことでも知られている。

<第4日>

○ 蒲郡特別

蒲郡(がまごおり)は、愛知県中南部にある市。沿岸一帯は、三河湾国定公園に包含される観光地で、ラグーナ蒲郡や竹島水族館などがある。繊維工業や自動車産業が栄え、温暖な気候を活かしたミカンやイチゴなどの果物の栽培も盛ん。

○ 東海テレビ杯東海ステークス(GⅡ)

本競走は、昭和59年に創設された『ウインターステークス』を前身とする重賞競走。当初は12月にダート2200mで施行されるGⅢ競走であった。平成2年からは2300mに延伸、9年にGⅡへ格上げ、12年には施行時期が5月へ移された。その後、25年より施行時期を1月に移すとともに、中京競馬場1800mで施行されるようになった。なお、第1着馬には同年のフェブラリーステークスへの優先出走権が与えられる。

東海テレビは、愛知県名古屋市に本社を置く放送局。昭和33年開局で、FNS(フジテレビ)系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて施行されている。

○ 知立特別

知立(ちりゅう)は、愛知県中部の市。旧東海道の池鯉鮒(ちりふ)の宿として発展した。市内にある知立神社は、江戸時代に東海道三社の1つに数えられた名社で、日本武尊(やまとたけるのみこと)がもとを作ったといわれている。東部にある八橋は、歌物語の『伊勢物語』にも名所として詠まれた。

<第5日>

○ 金山特別

金山（かなやま）は、名古屋市中区と熱田区との境の地区。金山駅周辺は「名古屋ポストン美術館」や「アスナル金山」などの複合施設があり、名古屋の中心街の1つとなっている。

○ 伊良湖特別

伊良湖（いらご）は、愛知県田原市、渥美半島の先端に位置する町。伊良湖岬周辺は、1月上旬より咲き始める菜の花の名所として有名。同岬と三重県鳥羽市の神島との境の海峡は、伊良湖水道と呼ばれ、潮流が速く暗礁もあるため航海の難所として知られている。

○ 鞍ヶ池特別

鞍ヶ池（くらがいけ）は、愛知県豊田市にある池。池の周辺は鞍ヶ池公園として整備されており、園内には、木曾馬・牛などがいる観光牧場や熱帯の植物を栽培・展示する植物園など多くの施設がある。

<第6日>

○ ごぎょう賞

ごぎょうは、キク科ハハコグサ属の越年草。春の七草の1つ。全国各地に広く分布し、高さは10～30cm。葉と茎には白い綿毛を生やし、茎の先端に頭状花序の黄色の花を多数つける。花言葉は、「いつも思う」「優しい人」。

○ 中京スポーツ杯

中京スポーツは、東京スポーツ新聞社の中部支社から発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて施行されている。

○ 熱田特別

熱田（あつた）は、名古屋市南部の区。熱田神宮の門前町として発展した。江戸時代には宮宿と呼ばれ、東海道最大の宿場町として栄えた。熱田神宮は熱田大神を祭神とし、神体は草薙神剣であり、「熱田さま」「宮」として親しまれている。